

◎市民のごみ減量化大作戦

区全員で古紙回収！報奨金は会計にも貢献

西和田資源回収事業



西和田地区にあるリサイクルハウス

西和田資源回収会では、「区財政の一助」と「資源の有効利用」のため、平成17年から紙資源の回収を実施しています。

毎週日曜日に、二丁目と三丁目に用意した2カ所のリサイクルハウスを開放して区民に協力を呼びかけ、新聞紙・雑誌その他古紙を回収しています。回収作業は、区協議員全員が交代で「古紙回収リサイクルハウス」の管理を行っています。

その他にも、広く区民に回収の協力をお願いしています。

「リサイクルハウス」は、長野市の補助制度を利用して建設しました。設置に要する用地は、土地所有者の協力をいただき建設することができました。

交付金	単価
報奨金	古紙類・缶類・布類・びん類の資源物 ……1kgにつき6円
加算金 (逆有償)	ダンボール ……1円/kgまで
	雑誌 ……2円/kgまで

スタートから7年目となりますが、長野市からの回収報奨金により、順調に実績を重ねています。

さらに、区と環境美化推進会では、長野市指定の一般の可燃物・不燃物に対するごみの減量運動を啓発していますが、資源回収を実施したことにより、ごみ減量意識が高まり、排出マナーもとても良くなってきています。

それは、区民全員が順番にごみ集積所の管理当番を行うことにより、資源とごみの分別意識が高まってきたことの結果でもあります。

西和田区では、資源回収を通して区全体の「地域おこし」がさらに進められるよう、期待しています。

(西和田区長 上野正信)

ごみのゆくえ追跡レポート

プラごみはどこへ行く!

300kgのキューブになってリサイクル企業に!

プラごみは、日本容器包装リサイクル協会を通して入札方式で選ばれたリサイクル企業に引き取られ、再利用されます。処理費用は、容器や包装材を製造している企業がほぼ全額を負担していますが、実際の処理費用はそれより少ないので、その差額が還元され、長野市ではリサイクル基金として積み立てています。

平成22年度に還元された金額は、六千二百二十七百四十三円。この基金は、ごみ集積所やリサイクルハウス設置の補助金などにも使われています。

リサイクル事業者によるランク付で、長野市のプラごみは現在最高のAランク。でも、異物が多く混入しているとランクは下がり、引き取り費用も下がってしまうそうです。

家庭用のプラごみ1袋=約1kg

各地域からトラックで回収されたプラごみが清掃センターのプラットフォームに集められます。駅みたいですね!



このぐらいでトラック3台分。1日あたり12台分が集められます。回収車に押し込められた時点で圧縮されています。



破袋機で袋を破って中のごみを出します。
※注：NO!レジ袋!
ごみ袋の中のレジ袋は破袋機では破れないので、手作業で破いて中身を出さなければなりません。レジ袋から出してごみだけを入れてね。



袋から出されたプラごみがベルトコンベアで運ばれ、手作業で不適物を取り除きます。全体の約10%が異物。これで多少少ない方だとか…。



整然と積み上げられたプラごみのキューブは、1日1回40個分がリサイクル企業に運ばれます。



圧縮梱包機で、300kgの圧縮された塊になります。つまり300軒分が1キューブ!

※注：汚れのついた容器や、ストッキング・歯ブラシなど製品そのものは×。あくまでも包装材だけです。中には使用済みの注射器や介護用の尿の入った容器なども入っているそう。手作業で分別している方が困っています。

プラごみの量は
年間で3,719t!

約50%が再製品化され、残りは発電所の補足燃料などに使われます。プラスチック/ペット・プラスチック杭・擬木やベンチなどになります。

ペットボトルは、衣料品・カーペット・文房具などに。

★ペットボトルも同様にキューブになり、再利用化されます。こちらは衣料品・カーペット・文房具などに。